



# 森のなかま

2022年5月号

NO. 167 (継続312号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 令和3年度成長の森 植樹会活動報告

日時： 2022年3月12日(土) 8:00~16:00

場所： 県立21世紀の森(南足柄市)

<神奈川県> 水源環境保全課水源の森林推進グループ タケダ様 末広様

<かながわトラストみどり財団> 豊丸課長 古館様 山口様

インストラクター 総括リーダー西出⑫ 相馬⑤ 滝澤⑤ 久保⑧ 松本⑪ 大原⑬ 稲野辺⑬  
岩田⑭ 黒川⑭ 牧石⑭ 大岡⑮ 竹内⑮ 大友⑯ 久慈⑯ 堀口⑯

神奈川県における森林づくり「かながわ森林再生50年構想」に基づき、80~100年かけて木材を利用しながら巨木林になるように育てる「成長の森」。また、お子さんやお孫さんの健やかな成長と、苗木の成長を重ね合わせ、ご家族が数世代に渡り、愛着と親しむことの出来る「成長の森」。

### <植樹会場>

3月12日は初夏の陽気を思わせる中、令和3年度の植樹会が県立21世紀の森にて、令和2年度に新設されたエリアで開催されました。

箱根の外輪山を望む植樹会場には、午前10時ごろからマイクロバスに乗った参加者たちが陸續と到着してきました。

乳幼児連れの若いご夫婦とお孫さんを心配そうに見守る祖父母3世代のご家族や小学生とお母様の親子連れなど、様々なかたちのご家族で成長の森は賑わいました。またグリーンの帽子が良く似合う緑の少年団も参加しました。

はじめに参加者は、森林インストラクターから唐クワを使った植栽のやり方の指導を受けました。植栽する苗木は、次世代への花粉症対策として「神奈川県産無花粉スギ・無花粉ヒノキ(丹沢 森のミライ)」です。インストラクターからヒノキの葉っぱには裏表があり、表側(光合成色素に富んだ濃い緑色)が太陽の当たる向きに植えるとの説明に「葉表と葉裏はこうやって見分けられるんだ。」と知的好奇心をくすぐられた様子でした。

いよいよ植栽の開始です。家族ごとに専任の森林インストラクターが担当するので、皆がコミュニケーションをとりながら、楽しく作業ができたようです。ご家族は自分達が植えた植栽と一緒にビデオカメラやスマートフォンで家族写真を撮ったりしました。

令和3年度成長の森では、59家族・グループ、約200人が参加し、328本の無花粉スギ・ヒノキを植栽しました。隣接するエリアには令和2年度に植栽したものがあり、一年前の苗木の成長を比べて見るができます。ご家族達は、本日参加したお子さん・お孫さんの一年後の成長を重ね合わせていました。そして、将来のご家族の大切なイベントがある度に成長の森を楽しみに訪れて頂くためにも、私たち森林インストラクターがこの森を継続的に整備して行きたいと思えます。



(記 写真 大友 博道⑯)

### <丸太切り・募金会場>

植樹受付の10時前には、「森林館」前に、二台のウマを置いて丸太切り体験コーナーを設置。インストラクターは募金グッズ受付も担当することになり二手に分かれます。植樹会に参加した子どもが、一仕事を終えてホッとしたのか、親の手を引いて続々と丸太切りに挑戦しにきました。普段は目にしない皮付き丸太と大きなノコギリに、はじめは気後れして親の後ろでモジモジ。そんな子がノコギリを挽いているうちに、目の色が変わっていくのです。できあがったコースターを掲げて、ご両親、祖父母の前で誇らしげでした。なんとも微笑ましいですね。中には二年前にこの会で切ったことがあるので、それより太いサイズに挑戦したいという頼もしい子もいました。昔取った杵柄とばかりに、高齢のご夫婦が見事に挽き切ったのには驚きました。この日30組以上の家族が、丸太切りに汗を流し、コースターをお土産に持ち帰りました。

(記 写真 竹内 明彦㊞)



## かながわ森林インストラクターの会紹介 (事務局・総務部)

「森のなかま」2月号から掲載している組織の紹介です。今回は、スタッフ部門から「事務局・総務部」です。

事務局と総務部は、円滑な会運営と会員の活動を支える部署です。会全体の運営と対外活動の窓口は事務局が、会員の管理と会内部の事務は総務部がその役割を担っています。

事務局の活動は、多岐にわたっています。

- ・ 会の主たる活動である「NW 派遣調整事業」、会員のスキルアップを目的とした自発的な「部会活動」、財団からの委託事業を行う「事業部活動」を側面からサポートして、円滑な会運営を進めています。
- ・ 行政（県・財団）との固い絆を大事にし、関連諸団体との関係を深めています。
- ・ 認定 NPO 法人として健全な財政基盤を確保しながら、新たに増大した事務処理業務の効率化、IT化を進めています。
- ・ 森林環境税などに伴う新たな活動分野に参画し、会の知名度、存在価値を高めて行きます。

総務部の活動は、事務局から独立して、下記の業務を担っています。

- ・ 今まで分散されていた会員管理業務・保険業務を集約して、会員の利便性を高める業務をしています。
- ・ 文書管理、ファイリングを進めています。
- ・ パート専従事務所員を活用して、会総務業務の整備を進めています。
- ・ 諸会議を運営しています。

コロナ禍が収束し、日常が取り戻せれば、会の活動は再び活発になると予測されます。その時のために、サポート体制を充実させて、会と会員の実力を高めるよう努力してまいります。

(記 事務局長 山口 久基㊞)

《自然観察部会》

森林探訪第 101 回目

道保川公園 ～早春の水源と丘陵の自然を観察しよう～

1. 日時・場所：2022 年 3 月 12 日(土)①10：00～12：00 ②13：00～15：00

相模原市 道保川公園

2. 参加者 54 名

3. インストラクター：内野⑨、松石⑬、西岡⑬、河西⑭、赤崎⑫

(記・写真 赤崎 さほり⑫)

道保川公園半日コースの森林探訪は、感染症対策と参加者の安全のため、小分けの班編成にし、午前、午後の 2 回に分けて実施しました。

相模川段丘の湧水から発する都会のオアシス的な公園を、春の訪れを感じながらゆっくり散策することができ、お客さんとともに楽しむことができました。

花穂を伸ばしたセキショウをはじめ、マンサク、トサミズキ、ヒュウガミズキ、ウメ、ハナモモ、フクジュソウ、フキ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ハコベなどの花をゆっくり観察することができました。陽だまりには、キタキチョウ、テングチョウ、ルリタテハなどのチョウやオツネトンボの姿も見られました。川には、カワニナ、メダカ、アメンボ、といった小動物と、赤い石＝タンスイベニマダラを見ることができて、参加者の方からは「初めて見た」

「メダカは保護しているのですか？」などの声が聞かれました。水辺ではキセキレイが姿を見せ、ヤマガラは近くで長い間水浴びして目を楽しませてくれました。

午前午後のダブルヘッドーは少々きつかったですが、参加者の反応を見て 2 回に分けて実施した甲斐があったと思った開催でした。



セキショウ



《やどりき事業部特別企画》 2021 年度第 3 回『やどりきの森へ行こう！』  
【水源林のミツマタ群生鑑賞：早春に咲くミツマタ観察で春を感じよう】

日時：2022 年 3 月 12 日 9：30-14：30 晴れ

参加者：17 名

インストラクター：L 水口⑨、SL 波多野⑨、上宮田⑪、古館⑬、國弘⑭、飛田⑮、久次米⑯

やどりき水源林恒例のミツマタ群生鑑賞が、コロナ禍による 2 年連続中止を経て帰ってきました！当日はやっと春の到来を思わせるぼかぼかの晴天。水源林ならではの清浄な空気と水、抜けるような青空で、参加者もインストラクターも、うきうきと深山の早春を堪能しました。



ヤマアカガエルの卵を間近に観察。

ちな春の喜びに多く気づくことができました。未だ開き切っていないミツマタの黄色の花は、それでも高貴な香りを放ち始めており、精一杯、観察者を歓迎してくれたようです。

また、なかなか本体には出会えない動物も、それぞれの暮らしぶりを実感する機会に数多く恵まれました。広場のアカエゾマツに残された鹿の痕跡、スギの葉や実を食べたムササビの食痕、ムササビのまんまる排泄物（うんち、ですね）、巣穴がある幹をトントンと叩きながらどこまで樹洞が空いているか確認など、芽吹きが限られているからこそ体感しやすかったことが盛り沢山でした。水量が低くなっていた寄沢ではヤマアカガエルの卵塊を間近に観察し、オタマジャクシになりかけている卵に、もうすぐ春爛漫の予感。これらの体験の合間、やどりき事業部動物班が長年の調査結果の報告や動物それぞれの生態の説明を行い参加者の皆様により深く理解していただけるように努めました。

まん延防止等重点措置発令期間中で人間界ではなにかと窮屈な時期でしたが、開放的な水源林の春の初めを参加者全員が満喫し、水源林リピーターの方々からも「またイベントに



ふかふかのオオルリの巣！

厳しかった本年の冬を反映して例年よりもなにもかも開花が遅れていましたが、ツノハシバミの可憐な雌花、フサザクラの新鮮な開花とまだ冬芽だけの枝先に残ったウスタビガのネオングリーンの繭、やっと顔を出してきたフデリンドウの蕾など、いつもはより饒舌な若芽に紛れてしまいが

(写真 水口 俊則⑨、記 飛田 尚弥⑮)



咲きかけの可憐なミツマタにマスク越しの目も思わずほころびます。



水源林が目指す混交林の姿もご説明。

参加したい」「鍋割山周辺のより広範囲な散策も」の声を多くいただきました。やどりき事業部ではそのご期待に応える第一弾として 4 月 9 日に寄集落内の桜を愛でる『桜三昧！やどりき水源林の里』ハイキングを実施。また、**12 月 10 日に第二弾『紅葉の里！やどりき水源林への道』**で三廻部林道の紅葉散策を計画しております。感染症対策も万全を期しておりますので、是非みなさまのご参加をお待ち申し上げます。

《やどりき事業部会 2022年度》  
**「やどりき水源林 森の案内人研修」**

場所:やどりき水源林 日時:2020年3月13日(日) 10時~13時

< 記 藤井 敏彦⑭ >

やどりき水源林では、毎週土曜、日曜日の10時、13時の2回、訪れていただいた方をかながわ森林インストラクターが「森の案内人」となり、水源林を案内させていただいています(冬季の12月~2月は休止)。訪問者の方に、かながわの自然や水源林の大切さ、森林保全の重要性を実感していただくため、3つの観察散策ルートが整備され、日によっては森林の中で癒やし体験、水生土壌生物の観察も行っています。また、H19~H23年度の「成長の森」があり、お子様の健やかな成長を願って植樹された苗の成長を確認に来られる方もご案内しています。そこで、訪問者の方が安全に楽しく満足していただけるように、3月13日に毎年恒例の森の案内人の研修を実施しました。



広場での全体説明・背景は護岸工事完了風景!

2022年度は森の案内人49名の内、この日の参加者は35名です。当日は新型コロナウイルスによる蔓延防止法下のため対策を万全とし13時までの開催としました。時間短縮したため、3班に分かれ、2つのコース(20・21年成長の森コースと林道+Bコース)を回り、注意箇所・安全配慮等を確認しました。森案内の初心者には、案内人が管理棟に詰めてからの準備、案内時の装備、緊急時の対応、日誌記録等一連の手順についても確認しました。Aコースについてはこの春に森林整備も終了全コース開通したため、午後にはやどりき事業部役員と有志により、コースの安全状況をチェックしました。



散策コースの安全性確認

※研修は新型コロナウイルス感染予防対策として、事前検温確認、全員マスク着用、小グループに分かれての巡回など工夫し対応しました。また、4月3日にも第2回説明会を実施しています。

☆ 是非「是非水源林」にお越しください！ 森の案内人一同 準備万端でお待ちしております。



管理棟前 やどりき水源林説明



沢エリア: 危険要因を洗出



暗紅色のフサザクラが開花



半日陰に咲くヤマリソウ発見

## 活動短信

今回の掲載はR4年3月2日から3月12日分です。  
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

### 5月(皐月)(旧暦4月卯月)の

### 二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

#### 立夏 5/5 頃

田んぼではシュレーゲルアオガエルが高らかに鳴いています。たけのこがおいしい季節です

#### 小満 5/20 頃

夏の気配の中、田植えに向けて準備が進んでいます。麦の穂が熟し、いろいろな白い花が 咲くころです。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。  
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。

#### ◆ 活動団体・活動名 等

**日** 日付(できれば時間と天気も)

**場** 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

**参** 参加者 人数

**県** 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

**財**(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

**スタッフ** 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

**イ** インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*

#### ◆ 県民参加の森林づくり (間伐)

**日** 令和4年3月2日(水) 8:30~14:00

**場** 真鶴町岩(真鶴町県行造林)

**参** 45名

**財** 豊丸課長、大木様

**県** 鈴木自然環境保全センター足柄出張所長

**看** 佃様

**イ** L 上田⑩、佐藤⑤、小野⑦、野牛⑧、大澤⑩、小笠原⑩、徳岡⑪、西出⑫、石川⑫、北村⑬、松石⑬、岩田⑭、牧石⑭、大友⑯、小林⑯、岡村⑯

今までの寒さが嘘のように去り、春風が気持ちよく体を吹き抜け、絶好の作業日和となりました。小田原駅から4台のバスに分乗して真鶴町星が山公園駐車場へ向かいました。オリエンテーションでは、自然環境保全センター鈴木足柄出張所長等の挨拶とリーダーによる活動の注意事項等及びインストラクターの紹介に続

き、準備運動を行い作業現場に班単位で向かいました。途中道具受け取り、3~4名の少人数のグループのエリアに分かれて作業を開始しました。作業現場はやや平坦でしたが、木が密集しており、掛かり木になる恐れがあった。現実には、掛かり木になったグループも見受けられ、他グループの支援及びフェリングレバーの使用等により対応し伐倒することができた。



当初目的の概ね2本を伐倒した時点で作業を終了し、道具の手入れを行った後駐車場に戻り、春風を受けながら気持ちよく昼食をとりました。

その後予定通り小田原駅で解散しました。参加者からは、初心者のかたは1本倒せたことに喜びを感じ、経験者はもう少し太い木の要望がありました。反省会では、一部伐倒方向が交差していたので更に注意、掛かり木などにおけるフェリングレバーの使い方の向上が必要であると意見がでた。安全目標「周囲注意」に注意しながら作業をすすめ、本年度最後の本森林つくりは、ケガもなく無事作業を終えた。

(記 写真 上田 啓二⑩)

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。次掲載は6月号です。

森のめぐみ シリーズ

#### ◆ 横浜市立笠間小学校 間伐体験

**日** 令和4年3月8日(火) 12:30~15:00 曇り

**場** 長竹分収林

**参** 大人6名、子供5年生 96名、計102名

**財** 倉野様、古舘様

**イ** L 牧石⑭、柏倉④、佐藤⑤、小野⑦、松山⑩、松本⑪、西出⑫、大友⑯、岡村⑯、小林⑯

今年度最後の小学校の間伐体験活動を実施しました。

当日の相模原市緑区長竹の天気予報は降水確率、午前50%、午後20% 最高気温11度予報でしたが、活動予定が12:30～15:00のため雨に遭遇せずに活動を実施できました。小学5年生96名は集合場所に到着後、9班にわかれ用具を装着し13時～活動場所へ移動



開始。

担当インストラクターは活動場所着くと、最初に足元の安全確認と周囲に散乱している枝の片付を行った後、間伐手順の説明、伐倒方向の確認等を行ったのち小学生が交代で受け口、追い口を入れ、掛け声と共にロープを引くと、一気に木が倒れる班、枝掛かりが発生した班もありましたが、滑車の架け替えを行いロープの引く方向を変え、見事に処理をしていました。



活動中に小雨もあったようでしたが、森林内では殆ど感じる事はありませんでした。約1時間30分の短い活動時間の中で各班ヒノキ1本の間伐を終了し、予定通り15時に解散しました。(記、写真 牧石 稔⑭)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

## ◆ みどりのボランティア等対象 森林を学ぶ ～ 森林浴体験・探検隊 ～

- 日** 令和4年3月12日(土)9:30～12:00  
**場** 木もれびの森中央緑地(相模原市)  
**参** 43人(相模原市内で緑化普及分野の活動を行う市民ボランティアの皆様)  
**主催者** 公益財団法人相模原市まち・みどり公社  
 スタッフ4人  
**イ** L野牛⑧、石垣⑮、山下⑪、真貝⑪、宮下⑩、湯浅⑪、若林⑦、菊地①

初の相模原市の木もれびの森での活動です。事前申し込みの森林浴体験13人、探検隊30人です。



森林浴体験は、満開の河津桜が出迎えてくれました中央広場にて寝転んだり、呼吸法の癒し体験です。

探検隊は、森の中を散策、観察です。途中でこの場所で活動しているボランティアがチェーンソーで樹齡70年のナラ枯れ被害のあるコナラを伐倒してくださいました。初めて目にする伐倒と地面に倒れる際の音に感動されボランティア活動の問題点に対する解決策アドバイスの後解散となりました。

(記、写真 菊地 昭子①)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、研修会(5ページ参照)を経て、皆様をお待ちしています。水源林にお出かけください。

やどりき水源林ニュース4月号発行しました。



[やどりき水源林ニュース193号\(4月号\) \(forest-kanagawa.jp\)](http://forest-kanagawa.jp)

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当：井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel : 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: [kshinrin\\_pr@icloud.com](mailto:kshinrin_pr@icloud.com)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

[kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp](mailto:kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp)

【別冊】小林 照夫

Mail: [kobayashi@ts-pocket.jp](mailto:kobayashi@ts-pocket.jp)

原稿は随時受け付けています。

● やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

● ホームページ : <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

編集後記

★初夏を思わせる新緑の快晴の土曜日。弘法山ハイキングに行った。

長いコロナ自粛から解放されたか、たくさんの人が歩いている。

麓に住んで自分の庭のようにしている仲間があちこちに金蘭の花を見つけてくれた。毎年のようにここでは咲いているとのこと。銀蘭も一株だけ見つけた。若葉の若い緑色が青空に映えその若々しさをいっぱい広げている。

TVから見えるウクライナの瓦礫の山。あの茶色一色の画面とは別世界だ。あそこでもこの青空と新緑は同じようにあるんだろうに。

無残に殺されていった人々への追悼を心に刻みながら青空に祈った。(吉田)

★ゴールデンウィーク、去年はどうしていたかな?と振り返ってみますと。青い空の下でマスクをつけ、息苦をきらしながら植林したことを思い出しました。不自由ながら、自然の中の活動は、良い思い出として残るんだなと思いました。(笠原)

★コロナの感染者数は、高止まりですが、野外でのイベントは、復活しつつありますね。今年は、雨が多く気持の良い五月晴れは少なそうですが、気持ちの良い季節です。ゴールデンウィークには、どこかに出かけたい気になります。

しかし、知床の遭難事故などを見ると、観光も命がけですね。安全第一と、顧客サービスの兼ね合い、インストラクター活動に通じる部分もあります。

前回理事会で、新理事長から今年度の重点として安全最優先の方針が示されたので、皆様遵守願います。(黒川)

令和4年5月22日

(5月4日曜日「かながわの森へ行こう!の日」)に、

秦野市表丹沢野外活動センター(秦野市菩提地内)において、植樹や森林探訪会を行う「緑の祭典」を開催します。



詳細はこちら[スライド1 \(ktm.or.jp\)](http://ktm.or.jp)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

<お詫びと注意喚起>

- ・最近、2016年3月の移転前の旧事務所連絡先への間違い電話・faxがあり、ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません
- ・皆様へ 当会への連絡は下記の正しい連絡先へお願いいたします。

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会

TEL 046-297-0301 FAX 046-297-0302

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 阿藤壽孝 長尾晴子

竹内明彦 柳澤千恵美 小林照夫 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子

5月から広報部イラスト担当として、11期 長尾晴子さんをお迎えしました。